

1

ANAホールディングス株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● CSR活動の一環として、ステークホルダーへのサプライチェーン排出量に関する情報開示を行うと同時に、その全体像を把握し、温室効果ガス低減に向けた効果的な施策の促進を図ることを目的とする。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● 統合報告書および弊社ホームページにおける公開。● データ分析による施策検討。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● CO2などの温室効果ガス構成の全体像の把握ができ、効果的な対策の促進に繋がる。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● CSR推進部でグループ各社の情報を取りまとめている。

2

ANAホールディングス株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーンにおけるスコープ1が全体の8割を占めるので、その領域を中心に技術革新を考慮した排出量の削減策を検討する。
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none">● 航空機ジェット燃料からのCO2排出量がサプライチェーンの大半を占める（8割）ので、その項目に注目が集まりすぎる。その他項目の施策はステークホルダーから注目されない。
⑦ その他 （任意）	

3

ANAホールディングス株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2018年4月～2019年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入した製品・サービス関連項目 (整備部品費、外注費など)	● 原単位データベース(※1)
カテゴリ2「資本財」	● 資本財投資金額	● 原単位データベース(※1)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 購入燃料、購入電力の採掘、精製など	● 原単位データベース(※1)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 新規機体空輸時の燃油量	● 原単位データベース(※1)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別処理量	● 原単位データベース(※2)
カテゴリ6「出張」	● 地上職員 移動手段別交通費、国内、海外宿泊日数	● 原単位データベース(※2)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 勤務形態別都市区分別従業員数	● 原単位データベース(※2)
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● リース資産の移動に伴う排出はスコープ1,2に含めたため、算定対象範囲から除外	
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 非該当	

4

ANAホールディングス株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2018年4月～2019年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 非該当	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 弊社での機体退役後の使用年数を考慮した排出量	● 原単位データベース（※2）
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 非該当	
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 非該当	
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 非該当	
カテゴリ15「投資」	● 非該当	
「その他」	● 非該当	

※1「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 基本データベースver.1.01（国内データ）」

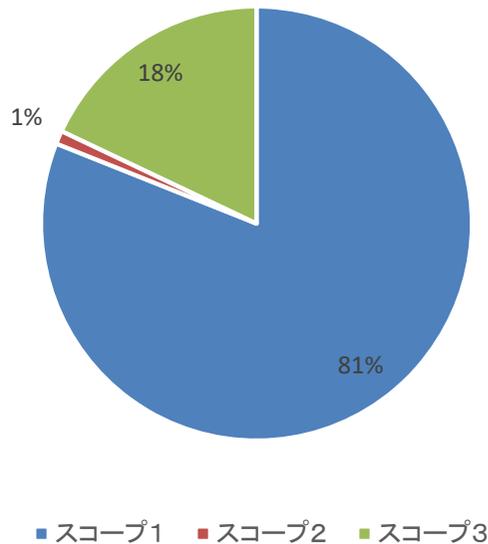
※2「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース Ver2.6」

5

ANAホールディングス株式会社

サプライチェーン排出量算定結果

サプライチェーン全体での 温室効果ガス排出量
(2018年度ANAグループ)



Scope3の構成比
(2018年度ANAグループ)

